

8. 河道特性

渡川水系は、その源を高知県高岡郡津野町の不入山（標高1,336m）に発し、梶原川、広見川、目黒川、黒尊川等の支川を合わせ、下流部の四万十市市街地において後川及び中筋川を合わせ太平洋に注ぐ。

源流から佐賀取水堰付近までの上流部は、「四万十源流の森」をはじめとする数多く溪流の水を集め、山間溪谷部を流下する河床勾配は1/100と急であるが、窪川盆地に至りやや河床勾配が緩やかになり1/650程度となる。佐賀取水堰から佐田付近までの中流部は、河床勾配は1/380～1/1,300程度であり、窪川盆地を流下した流水は、再び豊かな森林に囲まれた自然河岸の中を、緩急を交えて流下する。佐田付近から河口までの下流部の河床勾配は1/1,200～1/2,200程度とさらに緩やかになり、徐々に広がる平野部、四万十市市街地を流下し、多種多様な生物が生息する汽水域を経て太平洋に注ぐ。

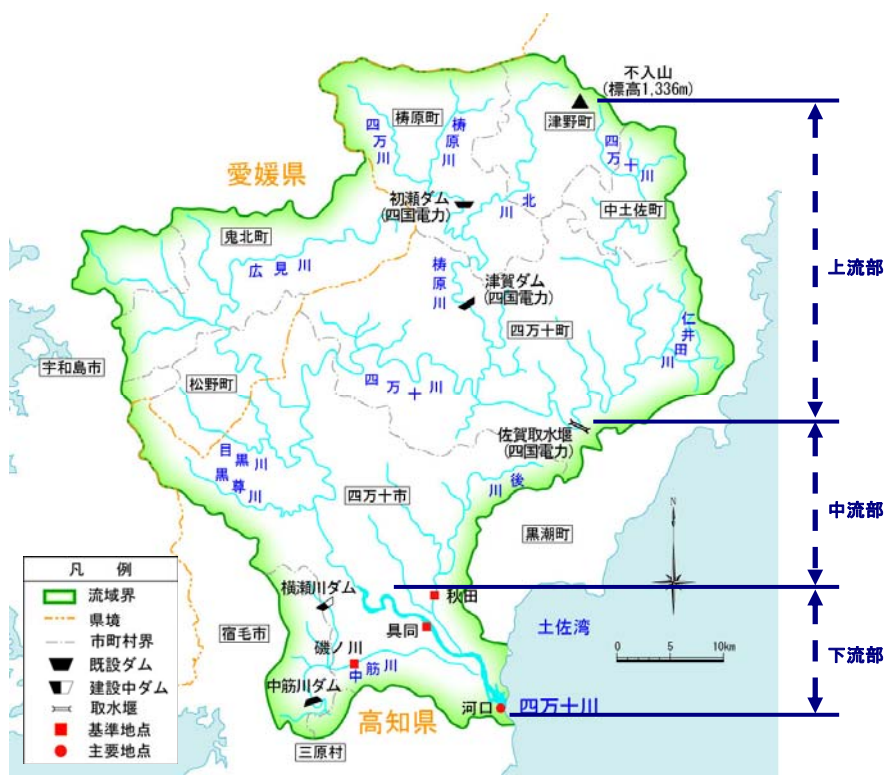


図 8.1 流域区分図

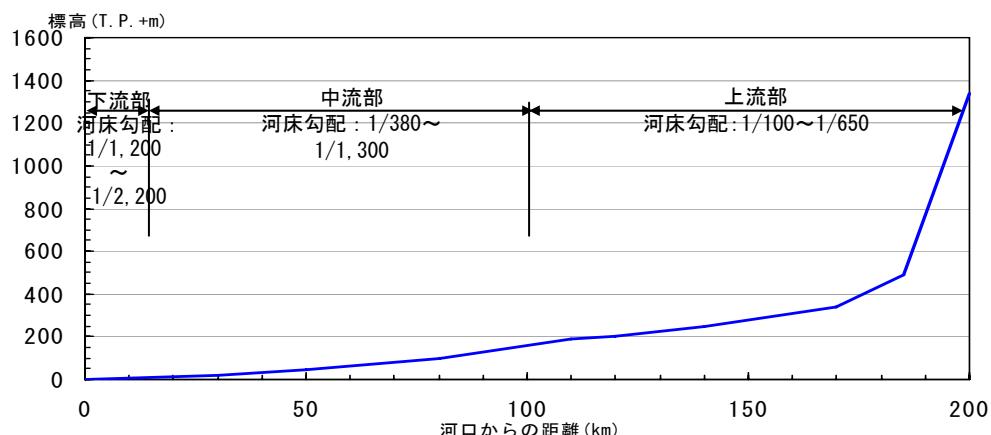


図 8.2 四万十川縦断図

8.1 四万十川の河道特性

8.1.1 上流部の河道特性(源流～佐賀取水堰)

不入山に発した四万十川は、深い緑に包まれた溪谷を形成しつつ流下し、窪川盆地^{くぼかわ}へと至る。河床勾配は1/100～1/650程度であり、源流から一気に下ってきた流水は窪川盆地に至り、やや流勢を弱める。河床材料は岩又は礫であり、窪川盆地に至ると砂礫となる。



四万十川源流付近



奈路天満宮付近（河口より約170k）

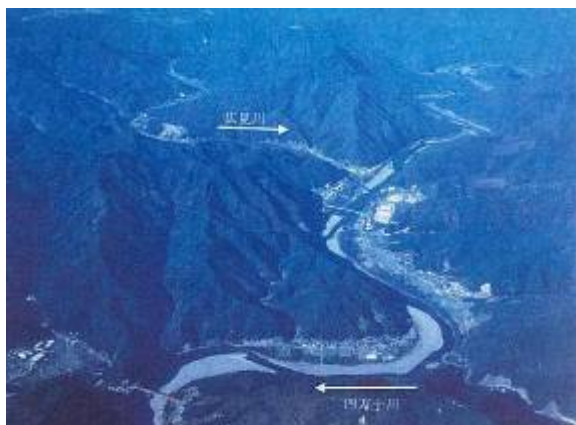


四万十川上流 145k 付近

8.1.2 中流部の河道特性(佐賀取水堰～四万十市佐田付近)

佐賀取水堰から四万十市佐田付近にかけての中流部は、大きく蛇行を繰り返しつつ、勾配が緩いためゆったりと流れるとともに、沈下橋等による里山の景観が広がっている。また、支川には滑床溪谷や龍王の滝等の景勝地が存在する。

河床勾配は $1/380 \sim 1/1,300$ であり、河床材料は山間部では岩や礫、里山の景観が広がる区間は砂礫である。



広見川合流点下流 (40k 付近)



上岡沈下橋 (100k 付近)



滑床溪谷



龍王の滝

8.1.3 下流部の河道特性(四万十市佐田付近～河口)

下流部は徐々に平野が拡がり、四万十市の中心市街地を流下し太平洋に至る。汽水域に至る上流端に位置する入田地区の瀬はアユの産卵場となっている。また、流れを分断する堰はなく、淡水と海水が入り混じる自然の汽水域の環境が良好に保全されている。

河床勾配は 1/1,200～1/2,200 と緩やかである。また、河床材料は砂礫である。



四万十川下流部



入田付近



1k 付近の干潟

また、四万十川の河口砂州は明治時代より形成された。昭和 60 年頃までは比較的安定した形状を保っていた。基準地点具同で概ね 10,000m³/s を越える洪水時にフラッシュされる砂州は概ね 1 ヶ月程度で復元されていたが、平成 17 年 9 月洪水(台風 14 号)においてフラッシュした砂州は、復元に 1 年以上の期間を要している。

【河口砂州 (平成 17 年 9 月洪水フラッシュ直後)】



【河口砂州(平成 19 年 8 月時点)】



平成 17 年 9 月洪水直後と現在の河口砂州の状況

8.2 支川後川の河道特性

後川は四万十川の一次支川であり、四万十川 5.8k 付近左岸にて四万十川に合流する。四万十市の中心である中村の市街地は後川と四万十川に挟まれた地域に形成されている。

四万十川合流点付近から 3k 付近までの河床勾配は 1/3,000 程度と緩やかで本川の排水の影響を受け、水はけが悪い内水被害を受けやすい地域となっている。また、河床材料は砂礫である。



後川合流点付近



後川 7k 付近

8.3 支川中筋川の河道特性

中筋川は四万十川の一次支川で、その源は白皇山しらおやまに発し、宿毛市を経て四万十市美崎地先の四万十川 3.2k 付近右岸にて四万十川に合流する。下流部は低平地を流下し、四万十川合流点から約 11k の区間の河床勾配は約 1/8,000 と非常に緩やかであるため、河床材料は粘土・シルト等細粒分が主である。また、沿川では四万十川の背水の影響により、度々内水被害が発生している。



中筋川合流点付近



中筋川 5k 付近



中筋川 15k 付近